



LET'S PLAY Indiacca

www.japan-indiacca.com

39

2017.1

〒101-0061

東京都千代田区三崎町 2-20-7

水道橋西口会館内

TEL.03-3512-2801

FAX.03-3512-2802

E-mail : JIA@japan-indiacca.com

Japan Indiacca Association ● 一般社団法人 日本インディアカ協会

第 11 回ミレグラ杯全日本シニアインディアカ大会結果

第 11 回ミレグラ杯全日本シニアインディアカ大会は 2016.11.23 (祝) 千葉県船橋市の船橋アリーナにてチーバ君の参加で盛り上がる中、開催されました。

女子 39、男女混合 39 のクラスは来年度 (2017 年) のポーランドにおける国別対抗の予選も兼ねた大会であり出場選手の意気込みも特に熱く盛り上がり、女子の部は、愛知県の飛翔クラブが熱戦を制し、男女混合の部は千葉県のフレッシュクラブが優勝しました。その他クラスでは各コート毎に、女子、男女混合でそれぞれクラス 45、クラス 50、クラス 60 に 54 チームが参加しコート毎に熱き中にも笑顔が漏れていました。参加された 69 チーム (433 名) 選手の皆様、遅い時間まで本当にお疲れ様でした。

<クラス A 女子 39 決勝トーナメント>

<優勝：飛翔クラブ>



愛知県飛鳥市の飛翔クラブです。昨年、日本で開催されたワールドカップ一般女子の部に初出場し、外国選手のカッコ良さに感激しました。そして、大勢の方々の声援が心に残っております。今回はシニアの部の年齢に達しましたので、シニアデビューを果たしました。試合は、羽根が落ちない粘りのあるプレーばかりでした。焦りを感じましたが「もう 1 度挑戦したい」という気持ちを保ち優勝することができたと思います。世界大会に挑戦できるなら、メダルを狙っていきます！今後とも皆様のご支援とご指導をよろしくお願い致します。

昨年度に引き続きの連覇ならず！
今回は準優勝の笑琉 (東京都)

<準優勝：笑琉>



<クラス B 男女混合 39 決勝トーナメント>

<優勝：フレッシュクラブ>



ポーランドの世界大会の予選を兼ねたこの大会、昨年は準優勝、今年の決勝も昨年と同じ顔合わせでしたがリベンジを果たせて良かったです。普段は一般の試合をメインに参加させて頂いておりますが気がつけばとくにシニア (日本のルールでもとくにシニア)、チーム、クラブのメンバーに助けられながらですが、引き続き頑張っていきたいと思っております！

応援してくださったみなさん、素晴らしい大会を開いて頂いた協会役員、スタッフのみなさま、ありがとうございました！ (フレッシュクラブ)

昨年度に引き続きの連覇ならず！
今回は準優勝のプラスワン (埼玉県)

<準優勝：プラスワン>



クラス C ~ H の各コート毎優勝チームの成績表

	チーム名	地 域	勝	敗	得セ	失セ	差	得点	失点	差	順位
クラス C45 女子 3 コート	ウィークエンド	静岡県	4	0	8	2	6	165	134	31	1
クラス C45 女子 4 コート	柏フレンズ	千葉県	4	0	8	0	8	144	79	65	1
クラス D45 男女混合 5 コート	羽根気打 (シャトキチ)	愛知県			10	0	10	180	144	36	1
クラス D45 男女混合 6 コート	鷹岡 WING	静岡県	4	0	8	0	8	144	95	49	1
クラス E50 女子 7 コート	KCL two	千葉県	4	0	8	2	6	164	147	17	1
クラス E50 女子 8 コート	ジャス長倉	埼玉県			8	2	6	176	115	61	1
クラス F50 男女混合 9 コート	キャッツ	埼玉県			7	3	4	165	164	1	1
クラス F50 男女混合 10 コート	ファースト	千葉県	3	1	7	4	3	172	164	8	1
クラス G60 女子 11 コート	ブルーエンジェル	埼玉県	4	0	8	1	7	157	96	61	1
クラス H60 男女混合 12 コート	赤い鳥	千葉県			8	2	6	171	136	35	1

第12回 全日本インディアカトーナメント開催

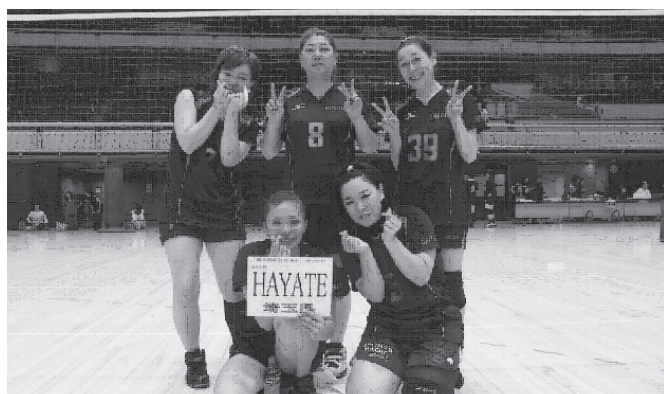
第12回全日本インディアカトーナメントは、7月2日（土）東京体育館において、全国6ブロックを勝ち抜いてきた精鋭80チームによって、インディアカ日本一を決める熱戦が展開されました。

男子 優勝 HAYATE 埼玉県



多くのチームの皆さんに支えられて優勝することができました。これに満足することなく次も優勝を目指します。

女子 優勝 HAYATE 埼玉県



やっととれた初優勝！日本一！
そして男子とダブル優勝！とても嬉しいです。

シニア女子 優勝 天元 埼玉県



2連覇できたことは満足しています。決勝トーナメントでは、チーム全員の気持ちがひとつになり優勝へつなげることができました。

男女混合 優勝 ヤンチャクラブ 愛知県



初優勝です。決勝進出も初めてです。そして愛知県で初めての男女混合優勝とても嬉しいです。

シニア男女混合 優勝 日越クラブ 新潟県



2年ぶり2回目の優勝です。悲願達成できました。

種目	優勝		準優勝		3位	
	チーム名	所属	チーム名	所属	チーム名	所属
男子	HAYATE	埼玉県	日の出メンズ	福島県	シャトルランナース	埼玉県
					CARNATION	沖縄県
女子	HAYATE	埼玉県	マドマックス	愛知県	栗原レディース	宮城県
					将軍	静岡県
シニア女子	天元	埼玉県	アニモ	埼玉県	びたみん	埼玉県
					ブラックナック	愛知県
男女混合	ヤンチャクラブ	愛知県	S・K・Cアイズ	岐阜県	TAKE OUT	静岡県
					すずらんFC	千葉県
シニア男女混合	日越クラブ	新潟県	BUDDY	愛知県	キャッツ	埼玉県
					スクランブルF	福島県

第22回ジャパン フレンドシップ リーグマッチ開催

第22回ジャパン フレンドシップ リーグマッチは7月3日（日）東京体育館において117チームが参加し、フリーの部女子畑沢オリーブチームの交流宣言で開幕しました。今回はクラスをフリーの部、40歳以上、50歳以上、60歳以上に分けて募集を行いました

前日行われた日本一を決めるトーナメント大会とは会場の雰囲気が一変して、全チームが色鮮やかな8色（パープル・イエロー・ライトオレンジ・ネイビー・ライトピンク・ターコイズ・ホットピンク・ライトグリーン）のTシャツに分かれ、和やかな中にも各色対抗の熱戦が展開されました。

第1位			第2位		
ネイビーグループ			ライトグリーングループ		
チーム名	地域	クラス	チーム名	地域	クラス
フェニックスぼたん	千葉県	女子フリー	畑沢オリーブ	千葉県	女子フリー
ABYSS-アビス-	千葉県	女子フリー	壱パン 2000	東京都	女子フリー
フレンドリー	神奈川県	男子フリー	FREEDOM	福島県	男女混合フリー
チアフルズ	茨城県	男女混合フリー	ウエストウイング	東京都	男女混合フリー
ひまわり	千葉県	女子 40	赤すずらん	千葉県	女子 40
まいど大阪	大阪府	男女混合 40	夢叶仁（むきょうじん）	栃木県	男女混合 40
スターズ A セブン	茨城県	女子 50	アリス	愛知県	女子 50
フレンドリー	神奈川県	女子 50	F.collabo	東京都	女子 50
チーム OMATURI	茨城県	男女混合 50	シュークリーム	千葉県	女子 50
六郷すばる	東京都	男女混合 50	松浪インディアカクラブ	神奈川県	男女混合 50
とんぼ	埼玉県	男女混合 50	スター&ペガサス	千葉県	男女混合 50
レモンズ	埼玉県	女子 60	ラッキーステップス	東京都	男女混合 50
クラブス スーパー	静岡県	男女混合 60	マーメイド	千葉県	女子 60
名古屋学芸大学	愛知県	大学対抗	フレンドリー愛知	愛知県	男女混合 60
			名古屋外国語大学	愛知県	大学対抗

敢闘賞（全勝チーム）

ASHURAN	奈良県	女子フリー	赤すずらん	千葉県	女子 40
フェニックスバラ	千葉県	女子 50	ブルーエンジェル	埼玉県	女子 60
ウエストウイング	東京都	男女混合フリー	ベアーズ	福島県	男女混合 40
フレンドリー	神奈川県	男女混合 50	クラブス スーパー	静岡県	男女混合 60
名古屋学芸大学	愛知県	大学対抗			

大学対抗の部

優 勝	名古屋学芸大学	愛知県
第2位	東京農業大学ラディッシュ	神奈川県

2016 年度 事業

【組織の整備・強化】

1. 個人会員・公認審判員・公認指導者の拡大
2. 都道府県協会の育成・強化方策の構築
3. ブロックの連携・協力

【理事会・総会の開催】

- ・2016 年度第1回理事会（2016 年 6 月 24 日 東京体育館第3会議室）
- ・2016 年度第1回総会（2016 年 6 月 24 日 東京体育館第3会議室）
- ・2016 年度第2回理事会（2017 年 3 月 期日および会場は未定）

【競技会の開催】

<各種全国大会>

- 『第22回(2016) ジャパン フレンドシップ インディアカ リーグ マッチ』
 - ・2016 年 7 月 3 日(日) 東京体育館 117 チーム(700 名)
- 『第12回 全日本 インディアカ トーナメント』
 - ・2016 年 7 月 2 日(土) 東京体育館 80 チーム(480 名)
- 『第11回全日本シニアインディアカ大会』
 - ・2016 年 11 月 23 日(祝日・水) 千葉県船橋市 69 チーム(500 名)
- 『第39回 全国 インディアカ 大会』『第69回全国レクリエーション大会』で開催
 - ・2016 年 9 月 25 日(日) 岐阜県各務原市

<ブロック大会>

- 『北海道・東北 ブロック インディアカ 大会』
 - ・2016 年 9 月 11 日(日) 福島県須賀川市「須賀川アリーナ」
- 『関東甲信越 ブロック インディアカ 大会』
 - ・2016 年 10 月 30 日(日) 栃木県鹿沼市「鹿沼総合体育館フォレストアリーナ」
- 『東海・北陸 ブロック インディアカ 大会』
 - ・2016 年 10 月 2 日(日) 愛知県一宮市「一宮市総合体育館」
- 『関西 ブロック インディアカ 大会』
 - ・2016 年 10 月 9 日(日) 奈良県橿原市「橿原市体育館」
- 『中・四国 ブロック インディアカ 大会』
 - ・2016 年 5 月 15 日(日) 鳥取県米子市「米子市産業文化体育館」
- 『九州・沖縄 ブロック インディアカ 大会』
 - ・2016 年 5 月 29 日(日) 沖縄県浦添市「浦添市民体育館」

【公認審判員の養成】

<公認C級審判員認定講習会の開催> 全国各地 40 回 900 名

<公認B級審判員認定講習会>

- ・東日本地区
 - ・2017 年 2 月 25 日(土)～26 日(日) 埼玉県比企郡「国立女性教育会館」
- ・西日本地区
 - ・2017 年 3 月 18 日(土)～19 日(日) 広島県廿日市市「アルカディアビレッジ」

<公認A級審判員認定講習会>

- ・2016 年 11 月 22 日(火)～23 日(祝日・水) 千葉県船橋市「船橋アリーナ」

【公認指導者の養成】

<公認インディアカ指導者移行講習会>

- ・東日本地区
 - ・2017 年 2 月 25 日(土) 埼玉県比企郡「国立女性教育会館」

<公認インディアカ上級指導者認定講習会>

- ・東日本地区
 - ・2017 年 2 月 25 日(土)～26 日(日) 埼玉県比企郡「国立女性教育会館」
 - ・西日本地区
 - ・2017 年 3 月 18 日(土)～19 日(日) 広島県廿日市市「アルカディアビレッジ」
- [公認A級審判員研修会・公認B級審判員研修会・認定員研修会]

<公認B級審判員研修会>

- ・『東日本地区』
 - ・2017 年 2 月 25 日(土)～26 日(日) 埼玉県比企郡「国立女性教育会館」
- ・『関西地区』
 - ・2017 年 3 月 4 日(土)～5 日(日) 京都府相楽郡「レイクフォレストリゾート」
- ・『西日本地区』
 - ・2017 年 3 月 18 日(土)～19 日(日) 広島県廿日市市「アルカディアビレッジ」

<公認A級審判員研修会>

- ・『東日本地区』
 - ・2017 年 2 月 25 日(土)～26 日(日) 埼玉県比企郡「国立女性教育会館」
- ・『西日本地区』
 - ・2017 年 3 月 18 日(土)～19 日(日) 広島県廿日市市「アルカディアビレッジ」

<認定員研修会>

- ・『東日本地区』
 - ・2017 年 2 月 25 日(土)～26 日(日) 埼玉県比企郡「国立女性教育会館」
- ・『関西地区』
 - ・2017 年 3 月 4 日(土)～5 日(日) 京都府相楽郡「レイクフォレストリゾート」
- ・『西日本地区』
 - ・2017 年 3 月 18 日(土)～19 日(日) 広島県廿日市市「アルカディアビレッジ」

2015年度事業報告 (2015年4月1日～2016年3月31日)

競技会の開催】

[全国大会]

1. 「第11回全日本インディアカトーナメント」
 - ・2015 年 6 月 13 日(土)・「東京体育館」
 - ・80 チーム
2. 「15 ジャパンフレンドシップインディアカリーグマッチ」
 - ・2015 年 6 月 14 日(日)・「東京体育館」
 - ・117 チーム
3. 「第38回全国インディアカ大会」 第68回全国レクリエーション大会)
 - ・2015 年 9 月 20 日(日)・長野県「三郷文化公園体育館」
 - ・27 チーム
4. 「第10回ミレグラ杯全日本シニアインディアカ大会」
 - ・2015 年 11 月 1 日(日)・八王子市「エスフォルタアリーナ八王子」
 - ・55 チーム

[ブロック大会]

1. 「第30回北海道・東北ブロックインディアカ大会」
 - ・2015 年 9 月 13 日(日)・青森県「十和田市総合体育センター」
 - ・35 チーム
2. 「第38回関東甲信越ブロックインディアカ大会」
 - ・2015 年 11 月 22 日(日)・群馬県「ALSOK ぐんまアリーナ」
 - ・85 チーム
3. 「第23回東海・北陸ブロックインディアカ大会」
 - ・2015 年 9 月 27 日(日)・富山県「南砺市福野体育館」
 - ・60 チーム
4. 「第35回関西ブロックインディアカ大会」
 - ・2015 年 10 月 12 日(祝)・京都府「亀岡運動公園体育館」
 - ・37 チーム
5. 「第18回中・四国ブロックインディアカ大会」
 - ・2015 年 4 月 26 日(日)・広島県「廿日市サンチェリー」
 - ・71 チーム
6. 「第32回九州ブロックインディアカ大会」
 - ・2015 年 5 月 31 日(日)・鹿児島県「サンアリーナせんだい」
 - ・29 チーム

【国際交流事業】

「4th インディアカワールドカップ」

- ・2015 年 8 月 25 日(火)～29 日(土)
- ・さいたま市記念総合体育館・5カ国39クラブ
- ・日本、ドイツ、エストニア、スイス、ルクセンブルグの各クラブが6部門で5日間にわたり熱戦を繰り広げた。

【理事会・総会の開催】

- ・2015 年度第1回理事会（2015 年 5 月 26 日）東京体育館
- ・2015 年度第1回総会（2015 年 5 月 26 日）東京体育館
- ・2015 年度第2回理事会（2016 年 3 月 24 日）東京体育館

【個人会員、公認指導者、公認審判員の育成】

[新規会員登録] 575 名

[公認C級審判員認定・登録] 394 名

[公認B級／A 級審判員／公認指導者の認定・登録]

<公認B級審判員認定・登録> 24 名

<公認A級審判員認定・登録> 6 名

<公認上級指導者認定・登録> 2 名

[登録更新]

<個人会員> 519 名

<公認C級審判員> 1744 名

<公認B級審判員> 100 名

<公認A級審判員> 18 名

<公認指導者> 32 名

[公認A級審判員研修会・公認B級審判員研修会・認定員研修会]

<公認A級審判員研修会>

- ・茨城県土浦市「水郷体育館」 19 名 2016 年 2 月 27 日～28 日
- ・愛知県岡崎市「愛知県青年の家」 18 名 2016 年 3 月 12 日～13 日

<公認B級審判員研修会>

- ・茨城県土浦市「水郷体育館」 11 名 2016 年 2 月 27 日～28 日
- ・愛知県岡崎市「愛知県青年の家」 29 名 2016 年 3 月 12 日～13 日

<認定員研修会>

- ・茨城県土浦市「水郷体育館」 8 名 2016 年 2 月 27 日～28 日
- ・愛知県岡崎市「愛知県青年の家」 8 名 2016 年 3 月 12 日～13 日

2017年9月1日付けインドiak競技規則の一部改訂のポイント

過去、何年かの間にインドiakは、技術面だけでなく、とてもダイナミックで感性に溢れたスポーツとして非常に発展してきました。

このスポーツとしての発展は、多くの人々がインドiakを好み、参加することへの強い魅力となり、さらに良いインドiakを開発するための励みになっています。

インドiakがこのように開発されてきた背景には、プレイヤー（愛好者）の技術的な開発はもとより、時代にあったルール改訂と審判員制度の確立による公認審判員の自発的な活躍があったからと捉えています。

ルールはインドiakが発展するにつれて、その要求に応じたものでなければなりません。また、ルールは技術的および戦術的な進歩による要求に適用するように見直しをしなければなりません。

このたびの2017年9月1日付けインドiak競技規則の一部改訂は、前回の2012年4月1日付改訂から4年間の経過し、その間に実施された公認B級審判員・A級審判員研修会における研究協議(ケーススタディ)での意見を検討し、さらにインドiakスポーツが進歩するように行うものであります。

I. ルール改訂にあたっての基本的な考え方

このたびの改訂は、①プレー（競技の方法）に関わる改訂は一部に止め、②ルールブック構成の全面的な組み替えです。

1. プレーに関わる（※競技の方法）改訂項目。

①サイドコーチの限度とふるまい。

これまで競技運営上チームのベンチ側からのサイドコーチをルール解釈の範囲で規制していたが、チームベンチの心情を考慮し、ルール化する。

②サービスまたはコートの選択。

ジャンケンに負けると選択権がないという不公平感をなくすためにルール化する。

③ネットに引っ掛かり静止したインドiakボール判定の緩和。

プレーヤーの責任でないプレーの結果に対する判定を不公平と捉え、ネットに引っ掛かり静止したインドiakボールの判定をノーカウントとする。

④ブロック後のプレーの緩和

ブロッカー接触後も両手打ちを有効とする。

⑤ブロックプレー許容範囲を競技規則から削除する。

両手打ちの適用によりブロックの範囲30cmを廃止する。

⑥ルール第22条「ポイントおよびサービスの移行」の全面削除。

ルール第22条の各条文は、ルールの各項目にすでに条文化されているため、二重表記を全面削除する。

⑦注意・警告・ポイント適用の明確化。

スポーツ規範について研修会等で推し進めている今日、注意や警告からポイントへの適用が不明確であったものをルール化する。

⑧チームからのサービス順の記録員への確認行為の緩和。

ゲーム中のチームからのサービス順の確認は、チームの責任の範囲として応じていなかったが、ゲームをスムーズに進める為、確認行為を緩和する。

2. ルールブック構成の全面的な組み替え。

現行のルールブックに記載されている（注）で示されている解釈文およびレフリーコード（判断の基準）は、既に浸透していると捉え各条項に組み入れ条文化するとともに、これまで4章立てで構成されていたルールブックを次の8章、26条、87項、12図解に全面的な組み替えを行い、さらに各条文の表現を分かりやすくしました。

①第1章 競技区域、設備および用具

ゲームを行うための設備および用具に関するルールをまとめている。

②第2章 参加者

チームの構成および参加者のマナーなどの基本姿勢をまとめている。

③第3章 競技形式

インドiakゲームの特色となる各プレーについて定義、反則となる基準、その後の措置、ゲームの準備などインドiakゲームを構成する根本をまとめている。

④第4章 競技の中断と遅延

ゲーム中断の手続きに関するルールをまとめている。

⑤第5章 競技参加者のふるまい

競技参加者のマナーおよび不法な行為や遅延に関するルール

をまとめている。

⑥第6章 審判員および審判団の構成

ゲームを運営するときの審判の方法や審判員の役割、職務、スムーズなゲーム運営に関するルールをまとめている。

⑦第7章 図解

ネット付近のインドiakボールの位置、プレーイングエリア、公式ハンドシグナル等をまとめている

II. プレーに関わる（※競技の方法）改訂8項目

1. サイドコーチの限度とふるまい。

第5条 主将（キャプテン）と監督

第2項 監督

1. 監督は、競技規則を理解し、これを守り、試合の規律について責任を負う。
2. 監督は、タイムアウトまたは競技者交替を要求する権利がある。
3. 監督は、タイムアウトで競技が中断されている間に限り競技者と話をすることができる。ただし、コート内に入ることはできない。
4. 監督は、セット前に記録員または副審に正しく記入されたサービスオーダーシートを提出する。
5. 監督は、競技の進行を妨げることがなければコーチングエリアにおいて、コート上の競技者に指示を与えることができる。
6. 監督は、主審の判定に対して、異議の申し出は許されない。

2. サービスまたはコートの選択。

第7条 競技の構成

第1項 サービスまたはコートの選択

1. 試合の開始に先立ち、主審は両チームの主将にジャンケンを行わせる。ジャンケンに勝ったチームの主将は次の一つを選ぶ。
 - ①サービスを選ぶ権利（サービスあるいはレシーブ）
 - ②コートを選択する権利。
2. ジャンケンに負けたチームの主将は、残っている一つの権利を得る。

3. ネットに引っ掛かり静止したインドiakボール判定の緩和

第9条 ネット付近のプレー

第1項 ネットに触れたインドiakボール

サービスでないインドiakボールが、ネットに触れて相手側コートに入った場合は、インプレーの状態にあるものとする。

第2項 ネットに引っ掛かり静止したインドiakボール

インドiakボールがネットに引っ掛かり静止した場合は、ノーカウントとしやり直しとする。ただし、4回目の打球については、失敗とする。

4. ブロック後のプレーの緩和とブロックプレー許容範囲の削除

第12条 ブロック

第1項 ブロック

ブロックとは、1人または2人以上の競技者がネットの近くで相手から打ち込まれてくるインドiakボールに対し

てネット上縁より高い位置で阻止するプレーをいう。

前列競技者のみがブロックに参加することができる。

第3項 ブロックとチームの打球

1. ブロックの接触は、チームの打球としては数えない。
2. ブロックの接触の後、インディアカボールに触れた競技者を含めどの競技者もインディアカボールに触れることができる。
3. ブロック競技者に接触したインディアカボールは両手で触れることができる。
4. ネット上縁より低い位置での接触は、ブロックとは認められずチームの1回目のプレーとなる。

第4項 ブロックの反則

1. 相手チームのサービスをブロックした場合は反則となる。
2. 後列競技者がブロック参加した場合は反則となる。

◆ 削除される現行ブロックプレー許容範囲。

「-----」
| (注) ネット近くとは、ネット上だけでなく、ネット上縁 |
| から下方 30 cm、横方向 30 cm の範囲 (空間) も含 |
| まれる。 |
| よって、それより離れてのブロックプレーはドリブルの反 |
| 則となる。 |
「-----」

5. 注意・警告・ポイントの適用

第5章 競技の中断と遅延

第17条 競技の遅延

第1項 遅延の種類

競技の再開を遅らせるチームの不適な行動は、遅延とされる。

1. 競技者交替を遅らせること。
2. 競技を再開するよう指示された後、さらに中断を延長すること。
3. 競技規則に反する競技者交替やタイムアウトを要求すること。
4. 不適当な要求を繰り返すこと。
5. チームのメンバーにより競技を遅らせること。

第2項 遅延に対する罰則

遅延警告と遅延反則は、チームに対する罰則である。

1. 遅延に対する罰則は、セット中の試合に有効である。
2. チームの1回目の遅延は、遅延警告として罰せられ、2回目とそれ以降の同一チームのメンバーによるどのような遅延も反則となる。
3. セット開始前又はセット間に課された遅延の罰則は、次のセットに適用される。

第6章 競技参加者のふるまい

第18条 競技参加者に求められるふるまい

1. 競技参加者は、競技規則を熟知し、これを守らなければならない。
2. 競技参加者は、審判員の判定をスポーツマンらしいふるまいで、異議を唱えることなく受け入れ、指示と判定に従わなければならない。
3. 競技参加者は、フェアプレーの精神で審判員だけでなく、他の役員、相手チームメンバー、観客にも丁寧に、礼儀正しくふるまわなければならない。
4. 競技者は、自分のプレーが有利になるような物を身につけて競技してはならない。
5. 競技者は、主審の判断した負傷の原因となるような物の取り外しの指示に従わず競技に参加するときはチーム及び自分の責任においておこなうこととする。

第19条 不法な行為と罰則

競技参加者に不法な行為または著しく競技精神に違反する言動があった場合には罰則を受ける。

第1項 不法な行為

1. 主審の判定について執拗に話しかけること。
2. 審判員の名誉を傷つけるような言動、あるいはその判定に影響をおよぼすような行為をすること。

3. 相手チーム、チームメイトの名誉を傷つけるような言葉を発したり、行為をすること。
4. 中傷や侮辱する言葉、ジェスチャーを示すなどの行為をすること。
5. 身体への攻撃を行ったり、手出ししたりするなど暴力的な行為をすること。
6. 主審の許可なく、競技の中断中に競技区域を離れたとき (セット間は除く)。

第2項 罰則の適用

1. セット中に前項の不法な行為があった場合は、主審は個人警告を受ける者が別にあっても、主将に対して警告する。なお重ねて行なったときは相手チームのポイントとする。
2. 特に侮辱的あるいは暴力行為は、競技者失格としてその試合中、競技場から退場させることができる。
3. 規定は監督、コーチ、マネージャー、および交替競技者にも適用する。

6. チームからのサービス順の記録員への確認行為を緩和

第24条 記録員

第1項 位置

記録員は、副審側の指定の場所 (記録席) で主審と向かい合って任務を遂行する。

第2項 責務

記録員は、副審と協力しながら次の項目により公式記録を作成する。

1. 競技中にそれぞれのチームの得点を記録し、得点板に常に正しい得点が表示されているかどうかを確認する。
2. 各セット開始前に両チームの主将または監督から提出されたローテーションオーダーにより、両チームに関する必要事項を公式記録用紙に記入する。
3. それぞれのサービス順に誤りが無いかどうかを判断し、サーバーの誤りがあったと判断した瞬間、副審に通告する。
4. 競技者交替および休息のタイムアウトを記録し、副審に通告する。
5. 試合終了後、公式記録用紙の記載事項を確認し、署名する。両主将と審判員の署名を採る。

条文に記載されていないが、主将またはチームベンチにいる監督から正規サーバーの確認行為があった場合は答えてよいこととした。

7. 現行ルール「第22条ポイントおよびサービスの移行」の全面削除

削除される現行「第22条 ポイントおよびサービスの移行」

次の場合、チームは相手チームに1点を与える。サービングチームはサービスを失う。

1. インディアカボールが自コート内の床面に触れたとき (グッド)。
2. サービスが正当に行なわれなかったとき。
3. サーバーの順番の誤りが発見されたとき。
4. サービスがサービスエリアで行なわれなかったとき (フットフォールト)。
5. サービスしたインディアカボールがネットに触れたとき。
6. サーバーの動作を隠すため、腕を動かしたり、飛び跳ねたり、2人以上集まってサーバーを隠したとき (スクリーン)。
7. サービスの際にローテーションオーダーに示された位置を守らなかったとき (アウトオブポジション)。
8. チームが続けて4回以上インディアカボールをプレーしたとき (オーバータイムス)。
9. インディアカボールを肘より先の部位以外でプレーしたとき (アンタッチ)。
10. 同一競技者が続けて2回インディアカボールに触れたとき、および両手でプレーしたとき。ただし、ブロックおよび相手チームから打ち込まれてくる打球は除く (ドリブル)。
11. インディアカボールを手や腕に静止させてしまったとき (ホールディング)。
12. 後列競技者がネットの上端より高いインディアカボールをフロントゾーン内でアタックしたとき。

13. サービスをネット上縁より高い位置で直接アタックヒットし、インディアカボールがネットを越えたとき（バックゾーンは除く）。
14. 非合法な方法でブロックしたとき。
15. 競技者がネットに触れたとき（タッチネット）。
16. 相手コートにおいてインプレーの状態にあるとき、ネットの下空間に手や足を出して相手競技者に触れたとき（インターフェア）。
17. インディアカボールがコート外の床に触れたとき（アウトオブバウンズ）。
18. インディアカボールがネット上を通過しなかったとき（アウトオブバウンズ）。
19. 競技者が相手競技区域空間にあるインディアカボールを、ネットを越えて触れたとき（オーバーネット）。
20. インプレーの状態にあるとき、競技者の身体の一部がセンターラインを越えて相手側コートに触れたとき（パッシング・ザ・センターライン）。
21. サービス時に、サーバーを除く競技者がコート外に出ているとき（コートアウト）。
22. インディアカボールをネットに引っ掛けてしまったとき。
23. セットで同一チームが2回目の競技者の警告を受けたとき。
24. 不法な競技者交替を行なったとき。
25. 主審の許可なく、競技の停止中に競技区域を離れたとき（セット間は除く）。
26. 不法な行為で反則の制裁を受けたとき。

Ⅲ. ルールブック構成の全面的な組み替えの実例

1. 目次

第1章 競技区域、設備および用具

第1条 競技区域（プレーイングエリア）／第2条 ネットとボール／第3条 インディアカボール

第2章 競技の参加者

第4条 チーム／第5条 主将（キャプテン）と監督

第3章 競技の方法

第6条 セットの得点と試合の勝利／第7条 競技の構成

第4章 プレー上の動作

第8条 インディアカボールをプレーする／第9条 ネット付近のプレー／第10条 競技の開始およびサービス／第11条 競技者のアタックプレー／第12条 ブロック

第5章 競技の中断と遅延

第13条 タイムアウトと競技者の交替／第14条 セット間のタイムアウトとコートの交替／第15条 例外的な競技の中断／第16条 競技の中断、延期および中止／第17条 競技の遅延

第6章 競技参加者のふるまい

第18条 競技参加者に求められるふるまい／第19条 不法な行為と罰則／第20条 試合の没収

第7章 審判員

第21条 審判団と手順／第22条 主審／第23条 副審／第24条 記録員／第25条 線審／第26条 公式ハンド・シグナル

第8章 図解

1. 競技区域とコート／2 ネットの規格／3. 競技者のポジション／4. アウトオブポジション／5. ローテーション／6. サーバーのフットフォルトの範囲／7. 打球許可部位／8. アウトオブバウンズ／9. ネット垂直面を通過するインディアカボール／10. 審判員の位置／11. 主審・副審の公式ハンドシグナル／12. 線審の公式ハンドシグナル

2. 新記載される「ゲームの特徴」全文

インディアカは、ネットで分けられたコートで二つのチームにより行われるスポーツである。

インディアカでは、特殊なボール（インディアカボール）を使いブロック及び打ち込まれるボールを除き片手で打つ。

ゲームは、ダイナミックで感性に溢れ、あらゆる年齢層にも、体力的に劣る者にも適している。

それぞれのチームは、ネット越しにインディアカボールを打ち合い、相手コートに落とすことを目標とする。また、相手チームの同様の努力を阻止することである。

インディアカボールは、サーバーがネット越しに相手コートへ打つサービスによって、イン・プレーの状態となる。

ラリーは、インディアカボールがコート上に落ちるか、ボール・アウトになるか、正しく返球できなくなるまで続けられる。

インディアカでは、ラリーに勝ったチームが得点する（ラリーポイント制）。

レシービングチームがラリーに勝った場合は、得点とサービス権を得て、競技者は時計回りに位置を一つずつ移動する。

3. (注)の解釈文を条文化した例

第2条 ネットとボール

第4項 ボールの位置

1. ネットを支える2本のポールは、それぞれのサイドラインとセンターラインの交点に設置される。
2. ネットを取り付けたボールの部分はネットとする。

◆ 条文化される現行「第2条 ネット」の注釈文

「（注）この規定でいうネットとは、次の図部分をいう。
つまりネットを含むボールの部分までである。ネットから
下の部分をポールという。」

第4条 チーム

第2項 チームの構成

1. 競技者の数は、いかなる事情があっても1チーム4名とする。
2. 全ての男女混合は、男子2名、女子2名とする。ただし、競技中何らかの事情で男子1名、女子3名となっても競技することができる。
3. チームには4名以内の交替競技者を用意することができる。
4. 1チームは交替競技者を含め8名を超えることはできない。
5. チームを構成する競技者のうちから、1名を主将とする。
6. チームに監督、コーチ、マネージャー各1名を置くことができる。
7. 監督も競技者を兼ねることができるが、それによって1チームが8名を超えることはできない。監督が競技者としてコート内にある間は、監督としての権限を失う。

◆ 条文化される現行「第4条 チームの構成」の注釈文

「（注）監督も競技者を兼ねることができるが、それによって1チームが8名を超えることはできない。監督が競技者としてコート内にある間は、監督としての権限を失う。」

第4条 チーム

第4項 服装と装備

1. 競技者は、競技服の胸部および背部に番号を表示しなければならない。
2. 競技服に表示する番号は、1番～99番の範囲で競技服と対照的な色合いにし、その大きさは、胸部は天地10cm以上で、字幅は2cm以上。背部は天地15cm以上で、字幅は2cm以上とする。
3. 競技者は、手の指のテーピング、肘当て、膝当てを装着することができる。
4. 競技者は、自分お責任において眼鏡、コンタクトレンズをつけることができる。

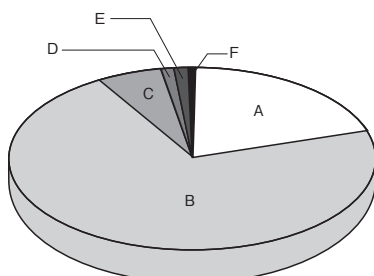
◆ 条文化される現行「第4条 チームの構成」の注釈文

「（注）競技服に表示する番号は、1番～99番の範囲で競技服と対照的な色合いにし、その大きさは、胸部は天地10cm以上で、字幅は2cm以上。背部は天地15cm以上で、字幅は2cm以上とする。」

インディアカアンケート調査結果報告

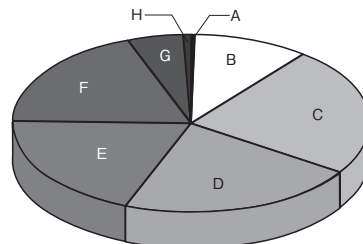
先に各都道府県協会からのアンケート配布をさせて頂きましたが、その集計結果を掲載します。今後のインディアカ発展に向け、どう対応すべきかの一助になればと考えます。

JIA 種別毎会員数分布図＜2016.8.31 現在＞



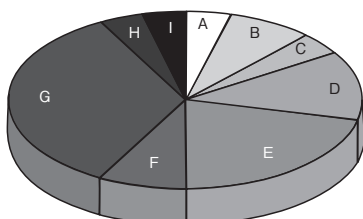
	A	B	C	D	E	F
会員種別	M 会員	C 級審判員会員	B 級審判員会員	A 級審判員会員	指導者	上級指導者
男性	695	2413	198	43	46	13
女性	1525	3198	150	26	49	14

JIA 登録年代別会員数



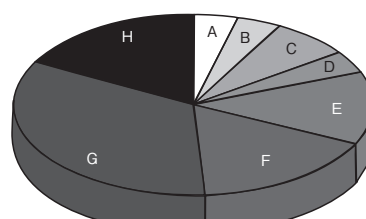
	A	B	C	D	E	F	G	H
年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
男性	13	348	786	722	644	625	175	23
女性	14	255	592	1029	1529	1219	210	11
合計	27	603	1378	1751	2173	1844	385	34

27年度の都道府県単位の大会数



	A	B	C	D	E	F	G	H	I
回数	10回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回
比率	4	8	4	13	21	8	34	4	4

近隣都道府県との交流大会比率



	A	B	C	D	E	F	G	H
回数	14回	10回	5回	4回	3回	2回	1回	0回
比率	4	4	7	4	13	17	34	17

【各都道府県協会の課題】

- ・会員の減少（新規会員が少ない）
- ・若年層の減少に伴い高齢化
- ・審判員の普及と育成
- ・地域（地元）大会のみ参加し、県協会主催や県内外地域の参加を控える会員の増加
- ・C級審判員までは取得するがそれ以上の資格を目指す会員はいない
- ・大会を企画、運営できる会員も限られており、後継者の育成が急務（現役員退任後の協会維持に危機感）
- ・行政機関との共同活動が難しい（市のスポーツ担当、地域の体協

等を通じて活動するが結果が出ない）

- ・未登録地域を県協会に復帰させる（独自で運営している地区もある）
- ・会場の確保が困難になってきた
- ・ルール改正に伴い全員への周知徹底が定着しない
- ・レクスポーツの多様化に伴い他への移動が多い
- ・クラブ数及び会員の減少により協会組織の継続が心配
- ・協会組織の立て直し ・幅広くインディアカを普及させたい
- ・M会員からC級審判員への育成
- ・関西ブロック主催の大会が少ない

2017年度全日本トーナメント大会・フレンドシップ大会日程が決定！！

◎ 13th ALL JAPAN INDIACA TOURNAMENT

2017年4月29日（祝・土） 東京体育館

◎ 23rd JAPAN FRIENDSHIP INDIACA LEAGUE MATCH

2017年4月30日（日） 東京体育館

2016年度研修会・講習会日程

日 程		2016/11/22～11/23	2017/2/25～2/26	2017/3/4～3/5	2017/3/18～3/19
会 場		船橋市 船橋アリーナ	埼玉県 国立女性教育会館	京都府 レイクフォレストリゾート	広島県 アルカディアビレッジ
事業名	公認A級審判員認定講習会	○	—	—	—
	公認B級審判員認定講習会	—	○	—	○
	公認指導者移行講習会	—	○	—	—
	公認上級指導者認定講習会	—	○	—	○
	公認A級審判員研修会	—	○	—	○
	公認B級審判員研修会	—	○	○	○
	認定員研修会	—	○	○	○

「機関誌」は年1回の発行で、今号は掲載記事の内容により発行日が大幅に遅れましたことを、お詫びいたします。